

# 日本人は問題が解決することに慣れすぎています

Japanese are too much Accustomed to the Settlement of Problems

**Christopher K. KNAPPER**

クリストファー  
K. ナッパー

**鈴木** 今日はPLの長山先生にもご出席いただいて、IATSSの059プロジェクト「交通における文化的諸要因の国際比較」の意識調査結果をもとに、お話を進めさせていただきたいと思います。

**ナッパー** 私もこうして長山・鈴木両先生とお会いし、調査結果についてお話でき、喜んでいます。

**鈴木** 今回の調査結果で非常に面白かったのは、交通事故の原因をめぐって、カナダやアメリカでは他人

のミスによって起こると考えているのに、日本人の多くは自分のミスで起こるとか、運が悪くて起こると考えているという点です。

**ナッパー** 確かに数字の上では極端な差が出ていますね。どうして日本人は他人に責任があると思わないのでしょうか。

**鈴木** いえ、日本人だって相手が悪いと思うこともあるのですが、相手を直接非難しないで、自分ご免なさいといってしまう。相手を悪者にして対決するより、人間関係の調和の方が大事だと考えるからでしょう。運が悪いというのは自分も相手も傷つかなくて、一番いいわけです。

**ナッパー** カナダやヨーロッパでは反対ですね。タク

シーのドライバーなど、よく町でけんかしています。日本では礼儀正しいことが重視されるのでしょうか。この文化的な差異はとても面白いと思います。

**鈴木** シートベルトの着用をめぐる調査結果も、それと似たような結果になっています。日本もカナダ同様シートベルトの着用率は高いのですが、日本人

のすべてがシートベルトの効用を信じているのかというと、そうではない。着用してないと罰せられるから、そして何よりも皆がしているから、ということでの着用が多いのです。ところがカナダの人たちの多くはその効用を信じて着用している。

**ナッパー** 必ずしもそうとは言い切れないと思います。カナダの人間だって、着用法ができるまでは、90%近くの人

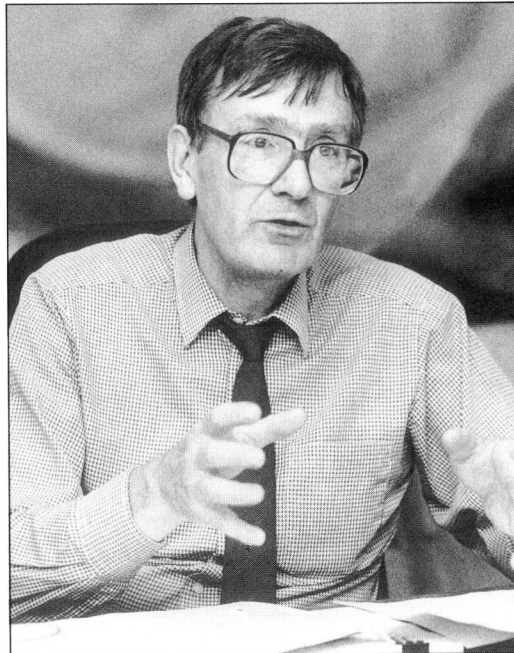
がその効用を信じていても、実際は12%ぐらいの人しか着用してなかったのです。だから法をつくったわけで、それで着用率が上がったのです。カナダ人は法を守ってこうという意識はかなり強いのです。

それにしても、多くの日本人が効用を信じていないのに着用しているというのは不思議ですね。先ほどの話に戻りますが、事故の原因を運が悪いということに帰している日本人は、自分が努力するということの価値をあまり認めてないともいえるのでしょうか。カナダではあなたの運命はあなたの責任と教えられているから運が悪かったという発想はあまりしません。

**鈴木** そうすると、交通安全のキャンペーンの方法な

ども国によって違うのかも知れませんが。

**ナッパー** 再三申しあげるように、カナダでは集団的調和よりも、個人の方が重視されています。従って、飲酒運転防止のポスターにしても、**You do this, and this will happen to you.** といった文面が中心になります。あなたの行動の結果、ということ

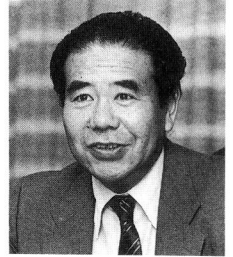


カナダ・ウォータールー大学心理学教授。社会心理学的観点から、運転行動・交通行動を研究している。教授法の指導や生涯教育を担当する部門のディレクターも務めている。

インタビューー

## 鈴木 春男

本学会員。千葉大学文学部教授、社会調査論。日本的労使関係の変化とこれからの労働問題、仕事とレジャーのかかわり(余暇社会学)、交通社会学などの研究を進めている。



キャンペーンの中心に据えます。日本では逆に集団心理を応用したキャンペーンを実施しているのですか。

**鈴木** いえ、日本でもあなた自身が…という形の呼びかけがなされていますが、でも、他の人もしているからあなたも…といったスタイルのキャンペーン、皆で心をあわせてやっていこうといった形のキャンペーンが成功する可能性はありますね。飲酒運転にしても、お酒など飲んで運転したら他人から非常識だと思われるからやめようというキャンペーンが有効かもしれません。

**ナッパー** 飲酒運転の話が出ましたが、カナダでも最近取締りをきびしく行っています。ただ、これは私の個人的な見解だし、少々極端に過ぎる言い方も知れませんが、警察官の中にはその取締りに多少疑問をもっている人もないわけではありません。中流階層の人たちは知性もあるし、度が過ぎた飲み方はしないはずだ。それをすべて罪人扱いするのはどうなのかといった発想をもつ者も多いようです。飲酒運転の取締りは行っていますが、カナダでは警察官がこれはバカげた法律だと考えたら取締らない傾向があります。従って、多くの場合、警察は評判のいい法と評判の悪い法をよりわけの一種のフィルターの役目を果たしているともいえます。

**鈴木** 確かに日本では法は正義だ、法で決っているのだから、という言い方や考え方はかなり目立ちます。法で決められたことでも、納得しなければ行動しないというのが警察官にさえ見られるという先程のお話は、大変興味深いですね。

**ナッパー** いや、カナダの警察だってもちろん法を守るという精神は日本と同じように、あるいはそれ以上に高いのです。ただ、納得のいく法であって欲しいという気持ちがそうさせる。調査結果を見ても、日本人の多くが事故はスピードの出しすぎで起ると答えていますね。でも、日本人の多くがそう教えられているからそう答えているのではないですか。実際にはスピードそのものが単独で事故原因になるのではなくて他の要素と結びついているはずですよ。

そのことを論理的に追究しないのではないですか。

**鈴木** 耳の痛いお話ですね。

**ナッパー** いえ、まわりの人に同調する行動というのは日本以外の国々にも多くあります。車が来なくても信号が赤で、まわりの人が待っていたなら渡らないといった現象は、私の住むオンタリオではあり得ませんが、カナダにも結構沢山あると思います。

**長山** 最近では日本も変わってきました。東京などでも歩行者信号が赤なのに渡る人が増えてきました。ただ欧米は確認行動がしっかりしていると思います。

**ナッパー** カナダでは、リスクに対しては個人が責任をもつという発想ですから。

**長山** そうした自己責任という考え方は子供の時からどのようにして教えているのでしょうか。

**ナッパー** 親が家庭で子供を教える時の原則は二つあると思います。1つは、ルールに従えばすべての問題は解決される、ということであり、いま1つは自己責任をルールと結合させて教えていく、ということだと思います。

**鈴木** 最後に日本の交通教育に対するアドバイスを。

**ナッパー** 狭い道路に車があふれているのにこれだけ事故率が低いのですから、日本の交通教育はいまでも最高だといってよいでしょう。ただあえて申しあげれば、日本は法律やルールが沢山あり、日本人はそれに従うことに慣れていて、従えば問題が解決することに慣れすぎています。自己責任という考え方は、自分のためでもあり、他人のためでもあるということを理解してもらうことが大事だと思います。

インタビュー後記

(昭和63年7月15日実施)  
 ちたいものである。この機会を再びも  
 討生かされるべきかとの検討  
 的的な交通安全対策にどう  
 が、それが今後両国の具  
 発想の違いは面白かつた  
 を重視するカナダ人の  
 人を発想に對しては個人  
 周囲に同調しようとする  
 いただけと幸いである  
 要因の国際比較を参照  
 交通における文化的諸  
 あった。本号掲載の論文  
 にしてのインタビューで  
 アンケート調査結果を前  
 ○五九プロジェクトの